

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

5日に引き続き、通告順に発言を許します。

東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。〔12番 東野恭行君登壇〕

○12番（東野恭行君）

おはようございます。

みらい創造クラブの東野恭行です。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、地域医療の現状と課題について。

令和7年8月、糸魚川市市民部健康増進課により「地域医療の現状と課題」のタイトルで開催された市民説明会の資料では、人口減少が進むとともに、医療スタッフの確保が困難になっていくことが想定される本市の状況を考えれば、地域に密着した社会基盤としての医療を確実に維持するために「地域医療構想」を早期に取りまとめ、実行することが必須であるとしています。今後の糸魚川市の医療についての方向性と取組について伺います。

(1) 今後、新潟県が掲げる「地域医療構想」が構築され、実行に向けた取組がされていくと考えますが、構想開始時期の見通しについて伺います。

(2) 将来の医療ニーズに対応した医療体制をつくるため、医療機関の役割分担や連携の仕組みを構築した地域医療構想がまとまり、実行していくことで、公的病院（糸魚川総合病院）の経営は改善され、赤字が解消されていくものとお考えか伺います。

(3) 新潟県及び厚生連病院所在市による財政支援がなされ、厚生連は当初想定された2025年度の運転資金枯渇を回避できるめどが立ったとしているが、2025年以降も新潟県による支援は見込めるのか伺います。

(4) 公的団体の運営による「公的病院」と、都道府県・市町村などの自治体が運営する「公立病院」の違いについて伺います。

(5) 地域医療の存続に向けて、久保田市長自らが順天堂大学へ何度も訪問されているようですが、それら「自ら汗をかく」活動が、今後、糸魚川市の医療にとって、どのような影響を期待できるのか伺います。

2、糸魚川市における観光振興に向けた取組について。

糸魚川市には、ジオサイトをはじめとする多くの観光資源があり、令和5年度の観光入込客総数は190万9,550人と多くの方が糸魚川市に訪れています。「稼げる観光」を意識するならば、施設の更新などに積極的に投資することが望ましいですが、糸魚川市の観光振興に向けたビジョンを伺います。

(1) 令和7年7月15日、妙高高原地域の大規模リゾート開発について、情報を共有する協議会が初めて開催されました。その協議会は、外資系の不動産投資運用会社ペイシャンスキャ

ピタルグループ「PCG」のほか、上越地域の3市や佐渡市、鉄道やバスの交通事業者など11の団体で構成されていますが、今後の糸魚川市の連携について、考えを伺います。

(2) マリンドリーム能生や親不知ピアパークのリニューアル時期の予定を伺います。松本糸魚川連絡道路設置と併せて、旧糸魚川市での「道の駅設置」に向けた構想はあるか伺います。

(3) 糸魚川市観光協会オフィシャルショップ（オンラインショップ）にて販売されているグッズの売行きはいかがですか。入館者の多いフォッサマグナミュージアムや観光協会の窓口での販売はされているのか伺います。

(4) 糸魚川市が考える新幹線駅（糸魚川駅）周辺のまちづくりについて伺います。

以上で1回目の質問を終了させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

おはようございます。

東野議員のご質問にお答えいたしたいと思います。

1番目の1点目につきましては、現在、実現に向けた協議を進めている段階であり、まだ具体的な時期はお示しできませんが、県を中心に早期実現を目指し、取組を進めております。

2点目につきましては、地域医療構想の実現は、病院運営の効率化による経営改善につながると考えておりますが、赤字解消には、診療報酬の見直し、病院のさらなる経営改革なども必要になると考えております。

3点目につきましては、JA新潟厚生連の経営改革を前提に、県が判断することとなりますが、厚生連病院所在市連携の下、県への働きかけを一層強めてまいります。

4点目につきましては、求められる医療機能に差はなく、国の財政支援制度において違いが生じております。

5点目につきましては、地域医療の実情を伝え、医師派遣に対する協力を求めるなど、安定した医療体制の確保につながるものと捉えておりますが、富山大学との関係にも配慮しつつ、多様な連携を築いてまいりたいと考えております。

2番目の1点目につきましては、広域観光ルートの確立を検討する部会に参加しており、開発の進捗に合わせて柔軟に対応してまいります。

2点目につきましては、2つの道の駅の更新は未定であります。

また、現時点では、新たな道の駅設置の構想には至っておりません。

3点目につきましては、「石の採取キット」などのオリジナルグッズの売行きは好調であり、フォッサマグナミュージアムや観光協会窓口で販売しております。

4点目につきましては、北陸新幹線等の活用によるにぎわいの創出に努めるとともに、宿場町としての歴史を引き出しながら交流人口の増加を目指してまいります。

以上ご質問にお答えいたしましたけども、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

2回目の質問、よろしくお願いいたします。

地域医療の現状と課題についての（1）から、順を追って再質問させていただきます。

（1）の構想開始時期の見通しについて、具体案はまだということでございましたが、再質問させていただきます。

平成29年（2017年）3月に新潟県地域医療構想が策定されました。新潟県における人口減少問題や団塊の世代が、後期高齢者となる2025年時点の高齢化率を踏まえて策定されたものと認識しております。同構想は、2025年（令和7年度）以降が中期再編の時期で大きく変わる変革の年度になるという認識がありますが、その進捗と近隣の上越市、妙高市とはどのような協議が進んでいるか、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

おはようございます。

地域医療構想の進捗の件でございますが、この3月に、本来であります中核病院、この地域の中核病院を決定するというスケジュールになっておりましたが、県がそれを先送りいたしました。それで今年度、いまだ地域医療構想の調整会議という会議が開かれておりませんので、私も上越3市の中で担当課でいろいろな意見交換、協議をさせていただいておまして、県にはそういった会議を早く開催してほしいというふうに申し入れているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

中核病院が決まっていけないというところをちょっと深掘りして質問したいところですが、引き続きちょっと再質問のほうを進めさせていただきたいと思います。

地域医療構想の目的を見ると、将来の医療ニーズに対応した医療体制をつくるため、新潟県が医療機関の役割分担や連携の仕組みを構築するために定められた構想とあり、限られた医療資源で最大限の効果を必要としています。圏域ごとに特定の病院に医師等を集約し、手術や救急に確実に対応、それ以外の病院では役割を見直すとありますが、役割が見直される病院については、診療科目が少なくなってしまう等の対応で、患者の足がさらに遠のいてしまうのではないかという懸念があ

ります。

上越市や妙高市において、県立病院が設置されており、半径50キロ離れた糸魚川市の市街地には、県立病院がありません。新潟県の中でも糸魚川市は最南端に位置し、現在まで医療体制の確保に大変ご苦労されたことと思います。地域医療構想の医療提供体制のフローを拝見させていただきますと、どうしても事業や経営のスリム化に焦点が行き、将来の糸魚川市の医療構想を考えると、上越市の地域に医師等が集約され、2次医療圏の中でも偏りが生じ、糸魚川市の医療が脆弱化してしまうのではないかと懸念しておりますが、現在の糸魚川市の医療体制の方向性、考え方をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

将来的には、上越市内に中核病院が設けられて、私ども糸魚川総合病院は、地域包括ケアを支える病院というふうになります。その機能の在り方というのは、今、議員おっしゃったように、半径50キロというところの距離感がございますので、糸魚川総合病院には、上越市内のほかの地域包括ケアを支える病院とは違って、ある一定程度の機能を残すということを主張しておりますし、皆さんからもそういった部分ではご理解が得られているというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

ご理解が得られているというところで安心したところでございますが、先週、上越市の一部の地域において、集中豪雨の影響で国道8号と北陸自動車道が通行止めとなり、数時間、糸魚川市から上越市、上越市から糸魚川市へ流入できない状況が発生しました。糸魚川市は、陸の孤島と化し、医療アクセスの確保について大きな課題があると感じました。

糸魚川市においては、独自の地域医療構想の考え方が必要であると考えますが、災害時の医療確保についての考え方をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

先日の大雨のときに、上越市内はかなり水がついて大変だったというふうにお聞きしております。8号も止まって、高速も止まったということで、上越のほうへ向かう手段はなかったということでございますので、地域医療構想の考え方の中で、上越医療圏の中核病院に向かうことができない状況となっております。そういった場合に、今回の場合は西側のほうが交通確保されておりましたので、黒部市民病院だとか、そういった病院に応援をお願いする、助けていただく、そういった医

療体制が必要なのだというふうに捉えております。今後もですね、今回の場合は糸魚川総合病院の中で、かなり病院長も頑張っていたというお話も聞いておりますが、地域を広げて連携できる仕組みが必要だというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

おはようございます。

道路整備の観点から回答のほうをさせていただきます。

先週の集中豪雨の影響ですね、国道8号、北陸自動車道のほうが通行止めとなりまして、幹線道路の重要性というものを再認識したところでございます。

毎年、国のほうに国道8号に伴います東バイパス及び親不知道路等の整備の促進については要望しているところでございますけども、今回の通行止めの状況も加味しまして、緊急時における命を守る道路としての必要不可欠なインフラであるということを再認識しましたので、災害に強い道路ネットワークの形成のためにもですね、市としましても、早期の工事着手を要望してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

地域医療構想の件もそうなんですが、糸魚川市には長年、他県の大学病院に通われているという方もいらっしゃるようです。そういった中で、しっかり医療アクセスの確保っていうのは、本当に大事なライフラインを守っていただくということは、医療に限らず大切なことだと思いますので、また着手が進みましたら、またいろいろご教示いただければというふうに思っております。

現在もこれからも、医療アクセスの確保が糸魚川市の患者さんにとって重要になってくると考えますが、オンデマンド交通やライドシェアの導入検討は進んでいるか、お伺いしたいと思います。

医療アクセスの確保に限らず高齢者は、免許返納などで移動手段が限られる状況の中、糸魚川市の導入意欲も伺いたいのですが、運転手の労働力不足や成り手不足を踏まえると、当面それらの導入は難しいものと考えておられるのか、現時点の考えをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

おはようございます。

お答えいたします。

現状は、通院・通学の足の確保を最優先に路線バスで対応しております。議員おっしゃられるとおり、これからということになりますと、やはり中山間地域を中心とした移動の手段の確保という

のは喫緊の課題だというふうに捉えております。

そういった中で、議員おっしゃられるオンデマンド交通ですとかライドシェアなども含めて、地域の方と話し合いを続けさせていただきまして、その地域にとってよりよい交通、移動手段がどういったものなのかということを模索する必要があると思っております。現在、地域のほうに出向いてですね、そういった話し合いを始めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

今ほどいただいた答弁で、そういう方向に進んでいると、最善の方法を導き出していくということとで進めていただければというふうに思います。よろしくお願いします。

糸魚川市においても、人工透析などでの治療で通院されている方は多くいらっしゃると思いますが、頻繁に通院しなければならない診療科目については、必要な診療科目として残されていくのか、そして、緊急医療の体制はどう変化していくのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

人工透析、糸魚川市内、おおむね70名ぐらいの方が糸魚川総合病院で人工透析を受けられているというふうにお聞きしております。そのような方がですね、今後も今までと変わりなく通院して、そういったケアを受けられるということが大事だと思っておりますので、今後、地域医療構想が進んでまいります、必要な診療科は必ず残していくという考え方で、整理をして考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

続きまして、（2）の質問に入ります。

今ほどいただいた答弁とつながってくるかと思うんですけども、地域医療構想がまとまり、公的病院、糸魚川総合病院の経営は改善され、赤字が解消されているものとお考えかという再質問に入らせていただきます。

個人的な意見になりますが、人口減による患者数の減少によって、県内の厚生連病院の経営はさらに苦しい状況を迎えていくと考えますが、地域医療構想を遂行していくことが、必ずしも病院の経営において赤字の解消につながるとは考えにくく、ただ赤字経営を解消することだけが安全・安心の医療提供体制につながらないとも考えております。地域医療構想において、役割の見直しをしていく病院については、今後も経営維持を支援していく傍ら、一定程度の赤字運営はやむを得ないという捉え方があるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

病院経営ですね、赤字の状態ですね、地域医療構想で、診療科を減らすことによって赤字が解消されるかという、そうではないと思います。議員のおっしゃるとおりだと思います。私ども糸魚川市のように、地理的に孤立する可能性があるような地理的状况なわけですから、このような地域には、多少赤字でも診療科は残していかなきゃいけない、維持しなければならないという考え方で考えておりますし、そこは政策医療として、県や市が行政が、若干支援をしてでも診療科を維持していかなければならないものと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

政策医療ということで、残していく医療はしっかり残していくという答弁いただいて、少しほっとしておるところでございます。

（3）番の再質問でございますが、2025年以降も新潟県による支援は見込めるのか、再度伺いたいと思います。

市は、今後の対応策として診療報酬改定や財政支援措置に関する国・県への要請を継続していくことを考えられておりますが、一時的に赤字による運営資金の補填ができたとしても、老朽化した設備や時代に対応した事務機能などを導入し、それらを更新していきたいとなると、枯渇寸前の資本力の中、その設備については、どのように投資的経費を見込んでいくのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

厚生連の中で、糸魚川総合病院は、今、柏崎の総合医療センターに次ぐ2番目に古い病院、もう三十何年経過しております、移転し、建設をしてからですね。そんな状況ですので、これから先、大きな投資が必要になることが予測されるわけです。そんな病院を、医療機器の面でも、今、厚生連の経営状況から更新を控えておるような状況でございますので、そうすると、将来的に大きな負担が予想されるということで、その辺を危惧しながら考えていかなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

経営の話になっていくので、お答えできない部分もあろうかと思うんですけども、例えば何年後かに立て直すために基金の積立てとか、そういったことは厚生連病院のほうで今までされてきているのか、分かる範囲で教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

詳細は分かりかねますが、厚生連の中でもこれまでの黒字経営のときに積み立ててきた資金というものがございました。そういったものであったりを利用して、一番直近ですと村上総合病院、令和元年ですかね、新規に建設をされているものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

それでは、（4）番の再質問に入らせていただきます。

公的病院と公立病院の違いについて再質問させていただきます。

公的団体を運営母体とした病院、厚生連が経営する糸魚川総合病院がありますが、地域医療構想を固めていく中で、自治体が運営する公立病院にしていく考えは、糸魚川市としてあるか伺いたいと思います。

公立病院として運営を転換していくならば、重要視する点と、市民にとってメリットがあれば何か、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今現在、すぐに公立病院ということは考えておりません。ですが、今後を考えたときに検討はしなければいけないというふうに考えておまして、医療機能に変わりはございませんけれども、市民の皆様であったり、そこの病院にお勤めになる従業員の、職員の皆様にとっては、公立化することによって経営が安定するというか、職場がなくならないという安心感にはつながるのではないかなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

その職場がなくなっていくのももちろん大事な捉え方だと思うんですけども、やはり病院としての機能がなくなっていくところが市民にとってメリットなのかなというふうに、お伺

いして思いました。

公的病院から公立病院に運営母体が変わった場合の公的資金、交付税措置などの流れについて詳しくお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

私も、財政担当ではないのでちょっと、本当の詳細は分かりかねますが、基本的には、公立病院には国から普通交付税が交付されます。それは、1病床当たり72万円という額で算出されます。その72万円掛ける、今、糸魚川総合病院の場合ですと199床ございますので、およそ1億4,300万ぐらいの金額になるかと思います。そういった交付税が、今の特別交付税のほかに入ってきて、それを病院事業会計に繰り出すことができるというところで、違いがあるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

さらに公立病院になると、普通交付税が還付されるということなんですけども、そういったときに、今現在、糸魚川市が厚生連病院に支出している金額と、実際、公立病院になったときの支出の状況ってシミュレーションってされていると思うんですけども、こういった状況になるのか、お聞かせいただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今現在、私ども糸魚川市のほうから、糸魚川総合病院のほうに年間2億5,000万ぐらいのもろもろ補助金であったりというものを支出させていただいておりまして、今年度につきましては、プラス緊急支援で7,000万というのがございます。そうすると3億1,000万、2,000万という金額になるかと思っておりますが、そのうち、特別交付税で措置されるのが約2億円程度ございまして、それ以外の部分は、今一般財源というような状況でございまして、今後、例えば公立病院化して普通交付税を頂けたならば、先ほど申し上げた1億4,300万というものが市のほうに入ってまいりますので、それを繰り出すことができるようになります。

ただ、単純にそういうわけにはいかないというふうに捉えておりまして、公設公営でありますと公務員の身分というふうになりますので、給与体系も変わってまいりますし、公設民営だとしてもですね、指定管理等で出した場合の取決めによって支出する額に違いが出てくるというふうに捉えておりますので、そこに大きな問題が生じてくる可能性があるというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

今ほどいただいた答弁で公立病院にしていく、そういう方針を考えるにしても慎重なやはり協議が必要だなんていうのを実感いたしました。

地域医療構想が進み、糸魚川市の医療体制が構築され、数年が経過した後、医療従事者を志し、糸魚川市の様々な制度を活用した大学や専門学校の卒業生の受皿はあるのだろうかという、そういった心配があります。糸魚川市には、医療技術者や介護従事者、看護師確保のために修学金の貸与事業があり、市内医療機関等に従事した場合は、全額返還免除になるという制度があります。安心して働ける環境の整備の一端として公的病院から公立病院に運営を転換していくという考え方もあるのかと思うんですけども、それについて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

公立病院であるからとか、公的病院だからということではなくて、糸魚川市には病院は残していかなければいけない。これは市長もそのようにお考えでございますので、そこは私ども何としてでもやっていかなきゃいけない部分だと思っております。市内で医療人材が不足しておりますので、そのような今、議員おっしゃったような修学資金制度を設けております。そのような中で、それをご利用いただいている方が地元に戻ってきて、就職していただけるように努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

病院の運営・経営について、糸魚川総合病院も市内の診療所も日々ご努力をされております。今後も糸魚川市との連携の下、久保田市政が掲げる縮充の観点で、市民にとって、病院運営にとって有効な地域医療構想を早期に進めていただきたいと考えます。

（5）番の再質問になります。

久保田市長が、順天堂大学へ何度も訪れて、自ら汗をかく活動されていることについての再質問になってきますが、久保田市長と職員の皆様の活動にご期待申し上げるところでございますが、答弁にもございました富山大学とのつながりをしっかり維持していくということをご答弁いただいておりますので重ねてのお願いになりますが、これまで培ってこられた医師確保における連携についても引き続き強化していただき、大切にしていきたいと考えます。人口減による機能縮小に悲観することなく市民が納得し、充実した医療体制の整備に努めていただきたい、このように考えますが、久保田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

今ほどの健康増進課長のほうからの答弁にもございましたように、県の医療構想と中核病院という問題がありますが、先般、知事への要望で、県立病院の補助の在り方等は一つの大きな要望事項になっていますが、私としましては、糸魚川市というものを主語にして、知事のほうに要望をいたしました。基本的に糸魚川市については、なかなか新潟県が広い中においても、言葉を選んで言えば取り残されてる部分がございます。その取り残されている部分をどう解消したいのかという部分で意見を述べさせていただきました。

先ほど若干触れました設備について、公立化という部分について、糸魚川市を主語にすると公立化、糸魚川総合病院を全面的に公立化するには、それ相応の資金の運用とか設備の維持管理については莫大なお金がかかりますので、これについてはなかなか進め切ることとはできない。

ただ、一部、国保診療所にはCTとかMRIまでそろった場所がございます。そこに、いわゆる民間が入ってくるという部分を前提に、交渉を順天堂と進めております。

施設の維持管理については、公立、市が対応して、その運用については、民間のほうにさせていただくということ。それと、先ほど申しました、答弁がありましたとおり、これからは、この糸魚川地区だけで完結できる医療もございません。特段、高度医療については、糸魚川総合病院をもってしても、やっぱり都心の高度医療、先進医療には追いつかない部分がございますので、そういう受皿を、ここに固有名詞が書いてありますので、順天堂病院にお願いをしているというところがあります。なので、医療のその受診のすみ分けをきちっとする上で、総合診療科医の派遣、そしてこれは糸魚川総合病院、上越総合病院でできますよと。これ以外の高度な医療に必要なものについては順天堂が受け入れしますよというふうなすみ分けをしながらやっていって、市民の医療ニーズに応えられるようにしていきたいという部分での交渉を今現在してる最中です。

具体的には、この9月議会を終えまして、皆様からいただいた意見、またいろんな要望について、健康増進課のほうと1つのペーパーにまとめて、それを持って10月、実際に順天堂大学の学長のほうに伺って、それらについて何ができるのか、糸魚川市としてこういうことをしてほしいという部分を具体的に今後詰めていきたいというふうに考えております。時間はちょっとかかりますけれども、鋭意努力をして、頑張っていきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

先般行われました、この地域医療の現状と課題という説明会を終わってから、市民の皆様からちょっといただいた声として、糸魚川はどう展開していくのか、ちょっと資料では分かりにくいということをちょっと受けましたので、今回質問させていただきましたが、今回、数々いただいた答弁

の中で安心できる部分ですとか、しっかり進めていただけてるなっていう実感もありましたので、また、鋭意努力されて進めていただければというふうに思います。よろしくお願いします。

続きまして、2番目の質問に入ります。

糸魚川市における観光振興に向けた取組について、妙高高原地域の大規模リゾート開発で糸魚川市の連携についてを再質問させていただきたいと思います。

7月15日の大規模リゾート開発の協議会では、どのような内容を協議されたのか、詳しく伺いたいと思います。

上越地域の3市や佐渡市が集まった意味は、今までにはない大規模な開発であり、多くの観光客が見込め、近隣地域にも観光客流入による経済効果が期待できることから、広域連携をしていこうという意味合いが深いと考えますが、当日の協議会は、情報の共有にとどまる話であったのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

ご質問の妙高杉ノ原マウンテンリゾート開発計画連携地域活性化協議会におきましては、交通観光部会、地域整備部会、県産品等活用部会、移住定住促進部会がございます。7月15日に開催されました協議会につきましては、第1回目の全体会議でございまして、ご質問のとおり、全体での情報共有の場でございました。

しかし、広域観光を進めるための交通観光部会とインフラ整備を行います地域整備部会が先行して、活動のほうは始まっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

大体、内容のほう理解できました。ありがとうございます。

大規模な開発ということもあり、完成も段階的で、完成された場所から運営が徐々に始まっていくと考えますが、この大規模なリゾート開発の完成時期とPCGが示す投資に対しての周辺地域への経済効果の予測が分かればお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

おはようございます。

PCGの発表によりますと、完成の時期につきましては第1期が2028年の冬、令和10年の冬になります。2028年の12月にオープン、先行の部分の第1期のオープンを目指すというこ

とであります。その後、第2期の整備が予定されておりまして、そちらについては2034年（令和16年）の完成を目指す、こちらで総合的な完成になりまして、総投資額については2,000億円という報道もされてございます。

経済波及効果と言いますが、周辺への経済の効果の予測につきましては、まだホテルの規模ですとか宿泊客数等も不明でございますので、公表はされておりません。計画では、PCG側の詳細の計画が、今月、9月に公表されるということでお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

2,000億という、とてつもない金額の投資になりますが、また9月以降、また経済効果が表されるということで、それを待ちたいと思います。

この妙高高原地域の大規模リゾート開発によって、国内外のどのような観光客の流れができるかと想定しているか。広域連携をうたう中、同開発の流れからできるインバウンド需要を見込み、糸魚川市として戦略的に需要を獲得していく考えがあるのか伺いたいと思います。

インバウンド需要を見込んでいるのであれば、日本国内長期滞在の観光ルートの一つとして、糸魚川市を目的地として来ていただくための仕掛けをこれから考えていくのか、伺いたいと思います。

糸魚川市にはどんなお客様を誘客していきたいとお考えか、再度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

インバウンドの観光客の流れに、観光客がPCGのほう、妙高のほうへ入ってくる流れといいですか、まず国内で、特に東京圏から上越妙高駅を、距離的な優位性を生かして、関東圏の日本人をターゲットにしたい、そこから始めたいということでお聞きはしております。その後、必然的にインバウンドが追随する形になるとは考えております。PCGの考えられるニーズといいますか宿泊客需要について、宿泊客がどんなことを求めるかについて、まだ意見交換はできておりませんけれども、必然的に妙高高原にホテルがありまして、我々糸魚川にとって魅力に見えるのは、やっぱり海であるというふうに捉えております。開発されるときコンセプトとしまして、上質なリゾートを提供したいということで、どちらかというと大量の団体客というよりは、個人で少数、長期滞在される方が客層というふうに見込んでおりますので、当市のジオパークを中心とした学び・体験する観光については、このPCGの求める客層のコンセプトと合致するものというふうに考えておりますので、大いに期待したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

これからの動き、変遷によって、また糸魚川市もいろんな動きが生じてくると思いますが、先般、

私が所属している商店街の研修視察で大阪に出かけましたが、大げさではなく観光客とおぼしき人の7割程度は外国人だなというふうに感じました。肌感覚ですが、感じました。それだけインバウンド観光による需要拡大の可能性は、糸魚川市にとってもあるなというふうに感じております。現在、糸魚川市におけるインバウンド観光における受皿、体制づくりは、十分なものと考えておられるか。インバウンド需要による体制を整えている事業所は、糸魚川市においても限られていると感じますが、妙高の大規模開発が進むことによって、糸魚川市のインバウンド観光に対する事業所の機運がさらに高まっていくものとお考えか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

インバウンドをどこまでターゲットといいますか目標として受皿をつくっていくかというところがまだ不明確な段階なんですけれども、体制、また人、施設等は十分であるとは考えておりません。今後、昨今の白馬の動きがまず顕著でございますが、今後、妙高高原もそういった動きが追随されると思います。今回の妙高の、先ほどの投資額を含めても、インバウンドを商売の対象とされたいという事業者は、今後、確実に増えてくるものというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

これ、あくまで個人的な考えなんですけど、糸魚川市のインバウンド需要が見込める観光地としての魅力のアップは、受皿となる個店それぞれの魅力アップが鍵になると考えています。最近、糸魚川市でも外国人観光客を見かけることがありますけど、外国人がお店に来ていただけるかどうか分からない状況に、お店単独でインバウンド観光の需要を踏まえた投資にはなかなか踏み切れないのではないかと考えております。

市内を周遊するための英語表記のマップやキャッシュレス対応などは、インバウンドのお客様を真剣に獲得していこうとお考えの事業所にとって必要なものであると考えますが、インバウンドは、うちには全く関係ないとお考えの事業所にとっては、ずっとこれからも関係のないものでしかないと思います。せっかく観光協会や糸魚川市が広域連携団体との連携で、訪問・営業活動などをして呼び込みをされたとしても、糸魚川市民には親しまれているお店、事業所なのにインバウンドの観光客の受入先の選択肢が限られてしまっは大変もったいないなというふうに考えております。今後は事業所から能動的にインバウンド需要拡大に動いてもらうための支援が必要であると考えております。現在、糸魚川市は、そのような動いてもらうような取組があるか、真剣にインバウンド需要の喚起をしていくなれば、糸魚川市としてどのような支援が必要であると考えているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

インバウンドが糸魚川にどれだけ来ているかという数字をちょっとご紹介させていただきますが、宿泊者数という数字が公表されております。当市につきましては、令和元年、平成31、令和元年の年に2,500人泊、コロナ前で2,500人泊を記録しておりまして、昨年、令和6年が3,000人泊になって、若干増加している状況です。

参考に、先ほどの妙高は、昨年4万6,000人、白馬が70万人程度ということでお聞きしております。現状の糸魚川をまず把握していただきたいというところで、市の取組としまして、インバウンド対応を行いたいという事業者の皆様に、当課におります国際交流員を派遣しまして、日常の会話ですとか表示物・掲示物の支援などさせていただいております。

事業者の温度感が、やはりかなり違うのかなというところは、先ほどの数値から見て、まだまだ糸魚川も生で増えているという実感が薄いからだというふうにも捉えますので、議員ご指摘の、能動的に動いていただけるように、我々もよりたくさん稼いでいただきたいと思いますので、観光協会ともアイデアを出していきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

よろしくお願いいたします。

（2）番の能生マリンドリーム、ピアパーク、そして旧糸魚川市での道の駅設置に向けた構想について再質問させていただきます。

今ほどPCGのペイシャンスキャピタルグループによる大規模開発と併せて、マリンドリームや、ピアパークのリニューアルを前倒しする考えはあるか、伺いたいと思います。

決して慌てることはないとは思いますが、外国人の、例えば富裕層を観光客として意識するならば、駅からの二次交通も踏まえ、充実も踏まえて、これから開発していく考えはあるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

ご指摘のマリンドリーム、ピアパークともに、海がストロングポイントの施設であるというふうに捉えておりまして、明白であると思っております。当然、注目をされる施設となると思います。

リニューアル計画につきましては、先ほど市長、答弁させていただいたとおり、まだ未定でございますが、PCGの開発計画が、この後、示されていく進捗に応じまして意見交換させていただき、遅れることなく、周辺観光コンテンツの磨き上げですとか、二次交通の利便性向上ですとか、できる準備を整えてまいりたいと考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

先ほどの答弁の中で、2028年ということで、それで最終的には2034年、まだ時間のほうがございますので、そのタイミングをにらみながらマリンドリームや、ピアパークの整備も進めていただけたらなというふうに思いますので、要望としてお伝えしたいと思います。

地方の官民連携の観光の取組で代表的な取組は、道の駅の運営であると考えます。道の駅は国土交通省の発表で、令和7年6月13日現在で1,230駅が登録されております。旧糸魚川市においては、広い地域でありながら道の駅が設置されておらず、観光客の流入を取りこぼしているように感じております。

久保田市長にお伺いしたいんですが、最近では、国内だけではなく海外からの旅行客も増加しつつある道の駅でございますが、今後、糸魚川市は、旧糸魚川市において、道の駅を増設するお考えがあるか、再度伺いたいと思います。また、旧糸魚川市民の大多数の方に、道の駅設置に対する期待感や、設置に対して支持が得られるものと捉えているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

道の駅につきましては、能生と青海という部分があって、糸魚川中心市街地には道の駅たるものがないということ。1つの考え方としては、商業施設化する道の駅であると、アクセスの問題だとか道路環境の問題があって、なかなか立地的な部分がないという。もう一つの観点は、防災という部分で、防災道の駅化していくっていう部分がございます。今、松本糸魚川道路が、今後の推移がありますけれども、早期開通に向けて要望はしていますけれども、その道中であって、148号線沿いの部分の利活用が可能であれば、そういう展開も考えられる。

それともう一つは、やっぱり美山という、中心市街地において、美山という部分の立地を生かしていくということも考え併せていかなければいけないんじゃないかなと思っております。

そういう部分で言えば、中心市街地への道の駅には、まだ至っていませんけれども、やっぱりいろんな考え方の中でそういうふうな案は、頭の中には浮かんでおりますけれども、それを具体的にどういうふうな形で進めていけばいいのか、ストーリー化については、まだまだ未決定の部分がございますので、現時点ではあればいいなという部分の対応、それぞれに向けてどういうふうにして進めていけばいいのか、やっぱりこれは検討しなきゃいけないと思っておりますので、ぜひまたいろんなご意見を聞かせていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

市民の皆様の中でも、いろんな発想を持ちの方がいらっしゃると思います。そういった中で、久保田市長は本当にちゃんと対話していただいて、反映していただける市長であると思いますので、

対話を繰り返していただければというふうに思います。

それでは、（３）番の糸魚川市観光協会のオフィシャルショップについて、再質問させていただきます。

観光協会のオフィシャルグッズを拝見しますと、大変すばらしいアイデアと面白いグッズが各種が販売されているなというふうに感じました。オリジナルトートバッグや糸魚川大学のＴシャツ、トレーナー、そして、糸魚川ミニ真柏育成セット～育三郎、石ころ探索キットひろっこ、注目なのが、いといがわ石活当日チケット、これらグッズの内容を教えてもらうことで、もっと糸魚川市民の皆様にも知っていただきたいなというふうに感じました。

いといがわ石活当日チケットが、４，０００円から４，５００円するのですが、販売に至った経緯とターゲットとなる世代、性別、内容について、詳しくお聞かせいただきたいのと、販売開始から現在の売行きを詳しく教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

石ころ探索キットというものが生み出されて、令和元年だったかと思うんですけど、その発売開始から大変好評を博しているというふうに捉えております。石拾いについては、テレビ放送等の影響もございまして、フォッサマグナミュージアムでの石の鑑定も大変盛況でございます。

そんな中、新たな着地型観光のツアーといいますか、そういった部分でサマーロックフェスというのを開催した際に、夏休み向けに造成したツアーであるというふうに認識しております。

ツアーの参加者については、手元に今資料がございませんのでお答えできませんが、ターゲットは、親子連れになっているものというふうに思います。内容は、親不知海岸、青海の観光案内所に集合して、ガイドつきの石拾いをするというもので、午前と午後、２回開催しております。人数については、昨年度は１６６人の方が全体で参加しまして、今年度は１２９人の参加者ということでお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○１２番（東野恭行君）

それじゃ、もう既にこの１２９人分、４，０００円から４，５００円のご購入をもう決めていただいたということなんですね。すごいなというふうに思います。

今や糸魚川市にとって、石拾いの体験型観光は、糸魚川市に来ていただくための大切なコンテンツであると考えます。石活当日チケットを活用いただいたお客様に、夏であれば熱中症対策としてお休みどころの提案だったり、いといがわ石活当日チケットを切り口に、パッケージした糸魚川の旅の提案などはあるか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

石のガイドをされる方がアテンドするツアーということになりますので、基本的には様々なおもてなしはされているとは捉えております。実施時間など、午前中は１０時から１２時までの２時間、午後は１３時から１５時までの２時間で、それぞれ暑い時期になりますので、当然そういった配慮として、水をお渡しするとかいうことはされているとお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○１２番（東野恭行君）

何が申し上げたいかといいますと、糸魚川荒波あんこう祭りに関しては、そのあんこう祭りを起点にあんこうフェアを開催して、観光客の地域への流入を見越した取組がされており、年々成果が、こちらに関しては出ていると感じております。

当日チケットについては、チケットの購入から体験だけで完結せず、先の稼ぐ観光について、民間事業所と一緒に知恵を絞ることが必要であると考えています。観光地域づくりを行う法人DMOに求められるのは、基本理念や基本戦略を基に、具体的なアクションプランを提案、実践につなげて、民間事業所とともに形にしていくことであると考えていますが、民間事業所と協会内でどうやったら売上げにつながっていくのか、そのような対話は現在されておりますでしょうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

石拾いから地域への流入という部分でのものかと思います。まさしく議員ご指摘のとおりかと思っております。

観光協会につきましては、自主・自立を目指す取組を進められているというふうに評価しております。事業者の、観光協会に加盟する事業者の皆様がもうけられて、当然、協会自身ももうけるという仕組みづくりの構築が必要であると考えております。実際には、人的な体制ですとか、観光のプロフェッショナルの方がどれだけいるとか、課題は多い中ではありますが、事業者に対しまして、今ですと、そんなにもうかってないけども十分というところの方を、こうしたらもっともっともうかるよというところに持っていく対話は、ぜひ行っていただきたいと思いますし、市としても支援してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○１２番（東野恭行君）

よろしくお願いいたします。

山形県に南陽市というところがあるんですけども、この南陽市は、全国でラーメン店の店舗数が全国１位だそうで、２０１６年にラーメン課という課を市役所に設立したそうで、正式な課ではな

くプロジェクト名なんだそうですが、現在までの取組を見ていきますと、地域にあるラーメンとラーメン店を通じて、交流人口の拡大に地域と自治体が真剣に取り組んでいる様子がうかがえます。そのラーメン課の内情については、いずれ調査もしていきたいところですが、糸魚川市においても、新しい地方創生の形、地域の方々と向き合って、稼ぐ観光について取り組んでいただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

ラーメン課というプロジェクトチームは存じ上げておりませんでした。非常に分かりやすいネーミングで、遊び心もあり、非常に面白いものかというふうに思っております。

観光については、当市の市役所の職員も、プロフェッショナルな職員が少ない、非常に育成が難しい部門であるというふうに感じておりまして、そういった部分についてはアイデア出しといいますか、プロジェクトチームのようなものがあって、そこで意思決定されたものが動いていくという取組は、非常に面白いかというふうに思いますので、また我々も研究させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

新しい地方創生の形に向けて、検討いただければというふうに思います。

（4）番の再質問、糸魚川市が考える新幹線駅周辺のまちづくりについて、再質問させていただきます。

今、糸魚川市駅北地域では、子育て支援に資する広場を整備する検討が進んでおり、8月29日の市民説明会では、様々な反応が見られました。特に印象に残った参加者の発言は、一日でも早く東北電力ビル、宮田ビルの解体工事を進めてほしいという意見でした。

個人的な意見としては、解体も無事に進み、多世代が集える図書館機能を有した子育て支援複合施設の建設が計画どおりに進んでほしかったのが本音ではございますが、今後、行政側が12月までに市民説明会を繰り返し、建物建設から広場建設変更に至る経緯についてご理解をいただき、納得解として広場設置が今の民意であるとするならば、私もしっかり12月には意思を表明していきたいと考えております。

観光の視点に戻りますが、駅北からおよそ300メートル北に進むと、日本海が見え、国道をまたぐと虹の展望台がございます。駅から徒歩で虹の展望台に至るまでに、広場とやぐらが登場するイメージになると思いますが、汎用性のある広場にどのような観光の役割が果たされると想像されているか、久保田市長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

私自身が、糸魚川の駅北という部分、やっぱりにぎわいという部分に観点を置いた中において、いろんな見直しに今、歩を進めているということでございます。

ただ、物を、そこに何かがあればにぎわうということじゃなくて、にぎわうというのは、町全体、いわゆる駅北のみならず、いろんな糸魚川におけるコンテンツをしっかりと生かして、やっぱり新幹線駅からさっき言われたように海に向かっていくあそこから、いろんな部分が、何かが生まれていけるように、これからは協働という、市民が、活動人口を増やしながら協働をしていくという部分に、我々自身も声がけをして、協働していただける方を増やしていくということが、まずにぎわいの前提になるんじゃないかと思います。そういう部分においての努力をしていきたいということで、今後、いろんな対話を含めて協力していただける方、協働でやっていっていただける方、また観光協会、また、まちづくりの皆さん、いろいろなプレーヤーの皆さんが、その全体の中で一人一人が参画できる。そして全体が、ハンカチ効果といいますかね、1つのところをつまみ上げると全体が上がってくるというような効果を目指していければいいなというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

これから、市民の皆様と対話を繰り返していくことで、また新しい道も見えてくると思いますし、ご期待申し上げるところでございます。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

東野議員の一般質問が終了いたしました。

暫時休憩といたします。

再開を11時15分といたします。

〈午前11時06分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、松田徳彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。〔2番 松田徳彦君登壇〕

○2番（松田徳彦君）